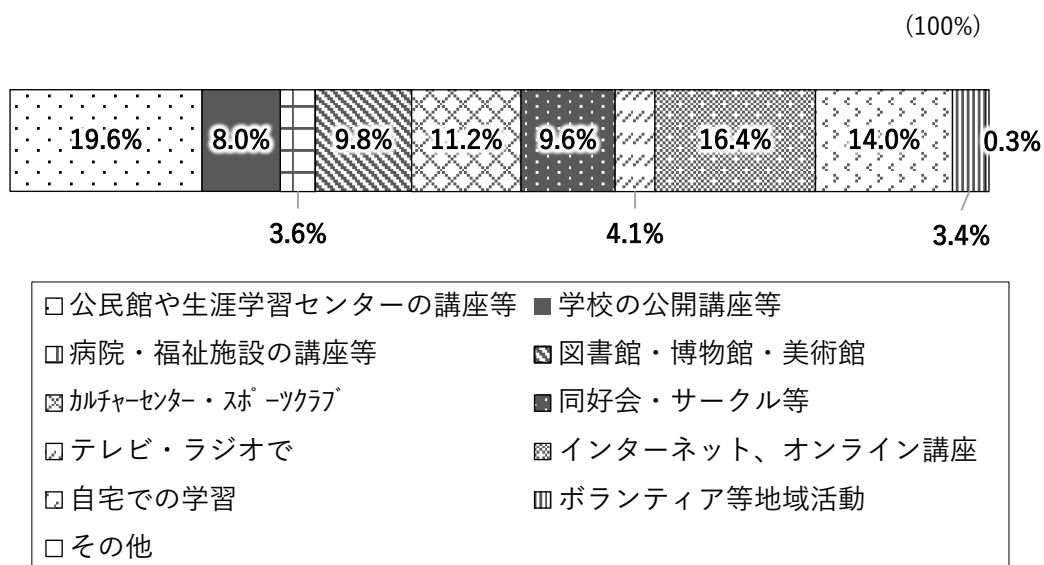


問 13 あなたが、今後学習や活動をするのであれば、どのような場所や形態で学習したいと考えますか。3つ選んでください。

問 13 回答欄

- 公民館や生涯学習センターなどの公的な機関における講座等
- 学校（高等学校、大学、大学院、専門学校など）における公開講座等
- 病院・福祉施設における講座等
- 図書館、博物館、美術館
- カルチャーセンターやスポーツクラブ
- 自宅での学習（書籍など）
- テレビやラジオ
- インターネット、オンライン講座、情報端末
- 同好会、サークル、自主的に行っている集まり等での活動
- ボランティア活動などの地域での活動を通しての学習
- その他（具体的に： ）

今後の学習方法として、「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座等」が（19.6%）と最も高く、次いで「インターネット、オンライン講座、情報端末」（16.4%）、「自宅での学習（書籍など）」（14.0%）、「カルチャーセンターやスポーツクラブ」（11.2%）、「図書館、博物館、美術館」（9.8%）と続いている。

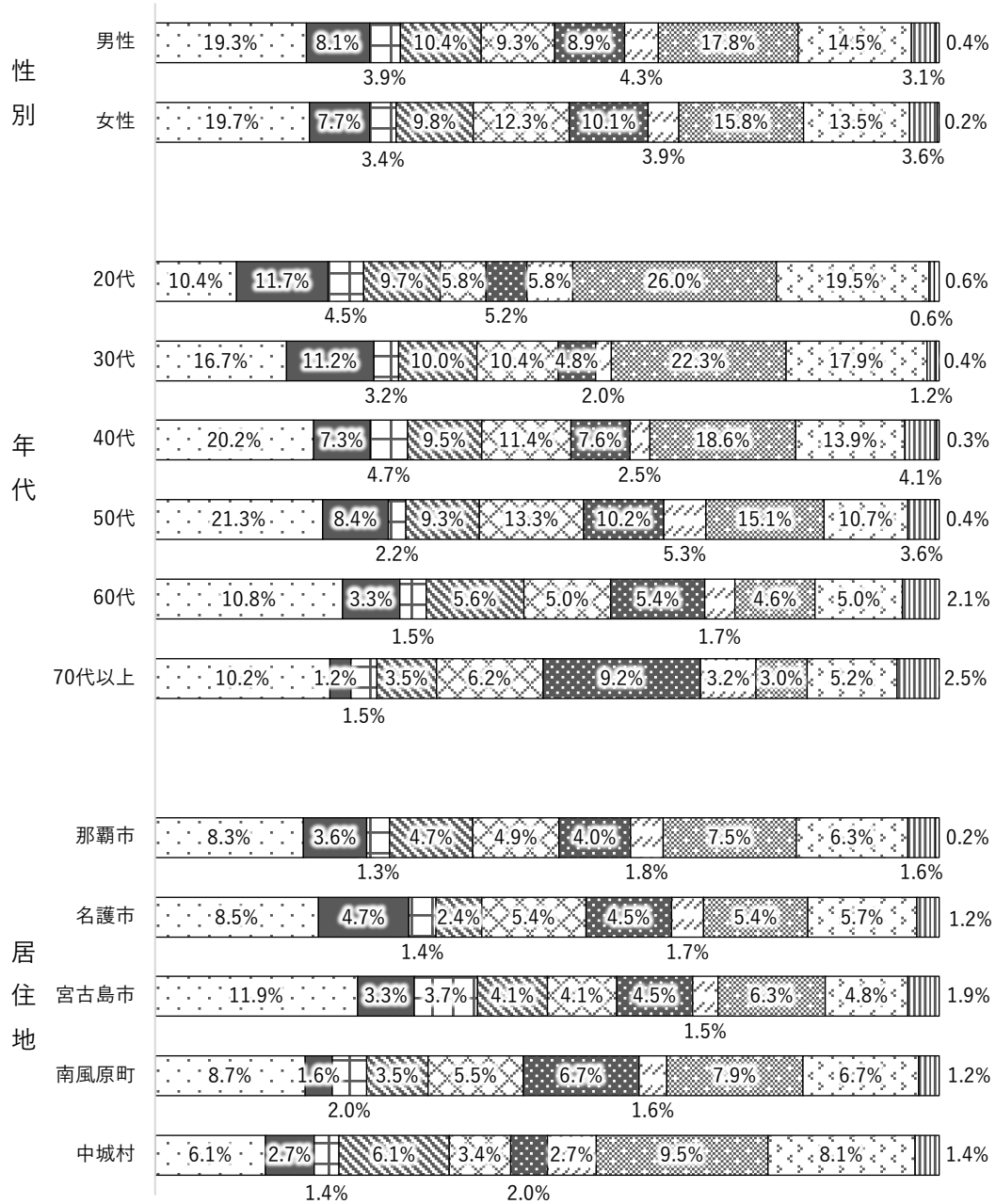


男女別にみると、男性で「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座等」(19.3%)、「インターネット、オンライン講座、情報端末」(17.8%)、「自宅での学習(書籍など)」(14.5%)が上位3つで、女性は「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座等」(19.7%)、「インターネット、オンライン講座、情報端末」(15.8%)、「自宅での学習(書籍など)」(13.5%)となっており、男女別に関わらず、同様の順位結果となっている。

年齢別にみると、20代(26.0%)、30代(22.3%)では、「インターネット、オンライン講座、情報端末」が最も高い回答結果となっている。しかし、40代(20.2%)、50代(21.3%)、60代(10.8%)、70代以上(10.2%)では、「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座等」が最も高いことから、今後の学習生涯場所や形態として、公的な施設や機関を活用した生涯学習や活動を考えている傾向が示されている。

地域別にみると、那覇市(8.3%)、名護市(8.5%)、宮古島市(11.9%)、南風原町(8.7%)では、「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座等」が最も高い回答結果となっているが、中城村(9.5%)では、「インターネット、オンライン講座、情報端末」が最も高く回答していることから、地域別に関わらず、多くの県民が、今後の学習生涯場所や形態として、公的な施設や機関を活用した生涯学習や活動を考えている傾向が示されている。

(100%)



- 公民館や生涯学習センターの講座等
- 学校の公開講座等
- ▣ 病院・福祉施設の講座等
- ▤ 図書館・博物館・美術館
- ▥ カルチャーセンター・スポーツクラブ
- ▦ 同好会・サークル等
- ▧ テレビ・ラジオで
- ▨ インターネット、オンライン講座
- 自宅での学習
- ▩ ボランティア等地域活動
- その他

2-3 学習活動を支える条件

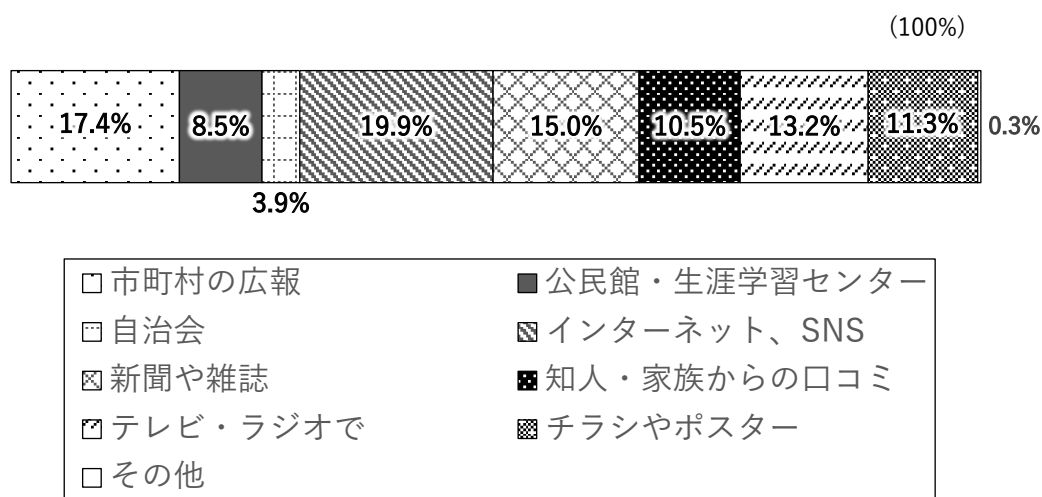
1. 情報提供方法 (問 14)

問 14 今後、学習や活動に関する情報を入手するのによい方法をいくつでも選んでください

問 14 回答欄

- 市町村の広報で
- 公民館や生涯学習センターなどの広報で
- 自治会などの回覧板や掲示板で
- インターネット、SNS で
- 新聞や雑誌で
- 知人や友人、家族からの口コミで
- テレビ、ラジオで
- チラシやポスターで
- その他 ()

今後の学習や活動に関する情報の提供方法について「インターネット、SNS で」と答えた人が (19.9%) で最も多く、次いで「市町村の広報で」(17.4%)、「新聞や雑誌で」(15.0%)、「テレビ、ラジオで」(13.2%) となっている。

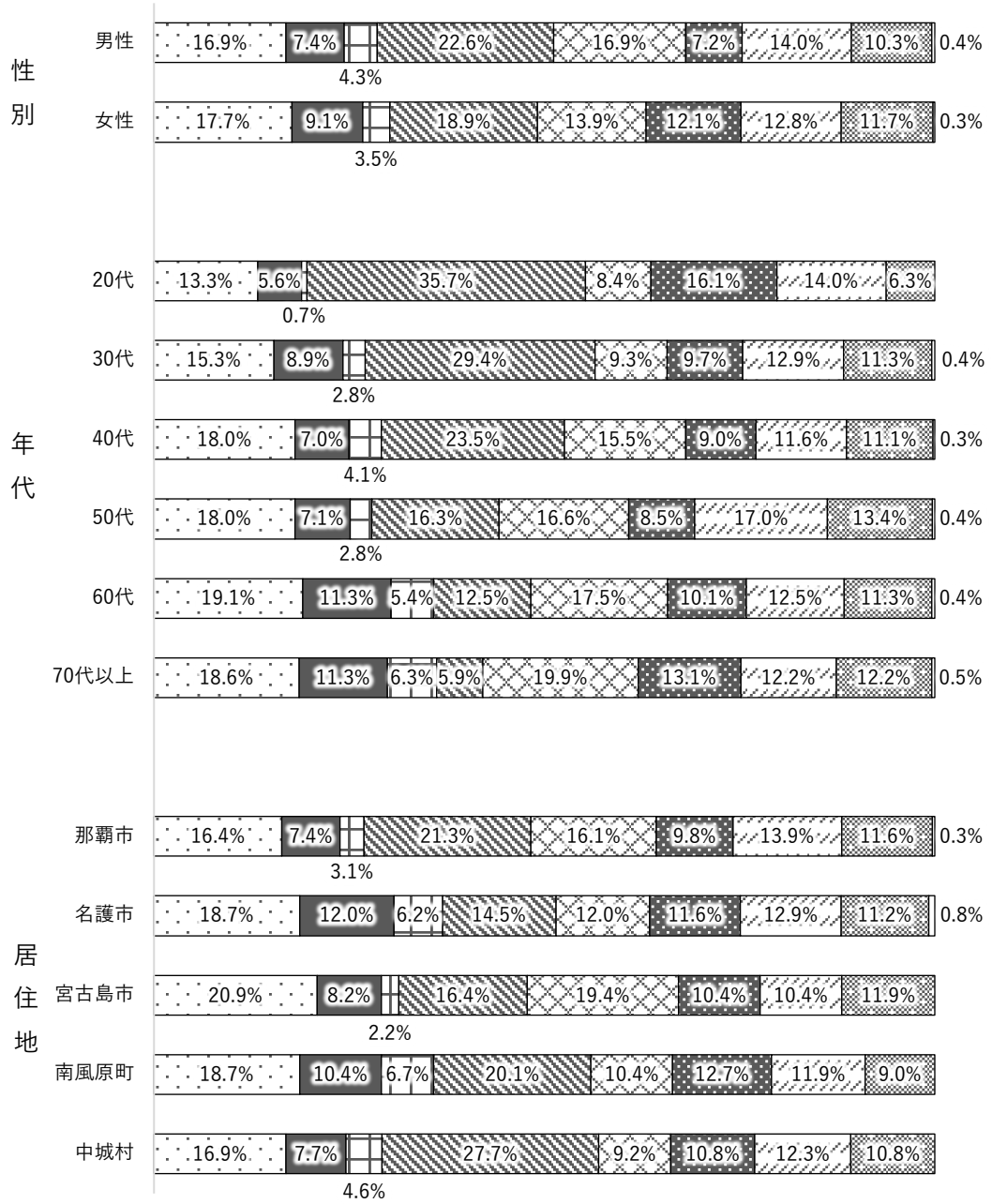


男女別にみると、男性で「インターネット、SNS で」(22.6%)、「市町村の広報で」と「新聞や雑誌で」(16.9%)、「テレビ、ラジオ」(14.0%) が上位に入っており、女性は「インターネット、SNS で」(18.9%)、「市町村の広報で」(17.7%)、「新聞や雑誌で」(13.9%) となっていることから、男女別に関わらず、デジタルとアナログを活用し、生涯学習や活動に関する情報を入手していることが示されている。

年齢別にみると、20代(35.7%)、30代(29.4%)、40代(23.5%)では、「インターネット、SNS で」が最も高い回答結果となっている。しかし、50代(18.0%)、60代(19.1%)では、「市町村の広報で」が最も高く、また70代以上(19.9%)では、「新聞や雑誌で」が最も高い回答結果となっていることから、年齢別によって、生涯学習や活動に関する情報入手が、デジタル活用とアナログ活用というように、異なることが示されている。

地域別にみると、那覇市(21.3%)、南風原町(20.1%)、中城村(27.7%)では、「インターネット、SNS で」が最も高い回答結果となっているが、名護市(18.7%)、宮古島市(20.9%)では、「市町村の広報で」が最も高い回答結果となっている。

(100%)



- 市町村の広報
- 自治会
- ▨ 新聞や雑誌
- ▨ テレビ・ラジオで
- その他
- 公民館・生涯学習センター
- ▨ インターネット、SNS
- 知人・家族からの口コミ
- ▨ チラシやポスター

2. 学習活動に要する自由時間（問 15）

全員におたずねします

問 15 あなたが 1 日で自由に使える時間はどれくらいですか（通勤・通学・家事・食事・睡眠時間を除く）

問 15 回答欄

a. 平日の場合

- 1 時間未満
- 1 時間～2 時間未満
- 2 時間～4 時間未満
- 4 時間～6 時間未満
- 6 時間以上

b. 休日の場合

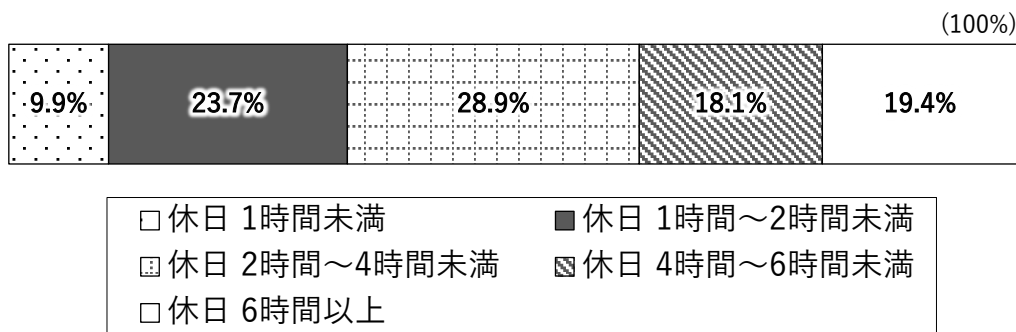
- 1 時間未満
- 1 時間～2 時間未満
- 2 時間～4 時間未満
- 4 時間～6 時間未満
- 6 時間以上

県民が平日に使える自由時間は、「平日の場合 1 時間～2 時間未満」(38.5%)で最も高く、次いで「平日の場合 2 時間～4 時間未満」(27.2%)、「平日の場合 1 時間未満」(19.3%) となっている。

また県民が休日に使える自由時間は、「休日の場合 2 時間～4 時間未満」(28.9%)で最も高く、次いで「休日の場合 1 時間～2 時間未満」(23.7%)、「休日の場合 6 時間以上」(19.4%) となっている。



- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 平日 1 時間未満 | <input checked="" type="checkbox"/> 平日 1 時間～2 時間未満 |
| <input type="checkbox"/> 平日 2 時間～4 時間未満 | <input checked="" type="checkbox"/> 平日 4 時間～6 時間未満 |
| <input type="checkbox"/> 平日 6 時間以上 | |

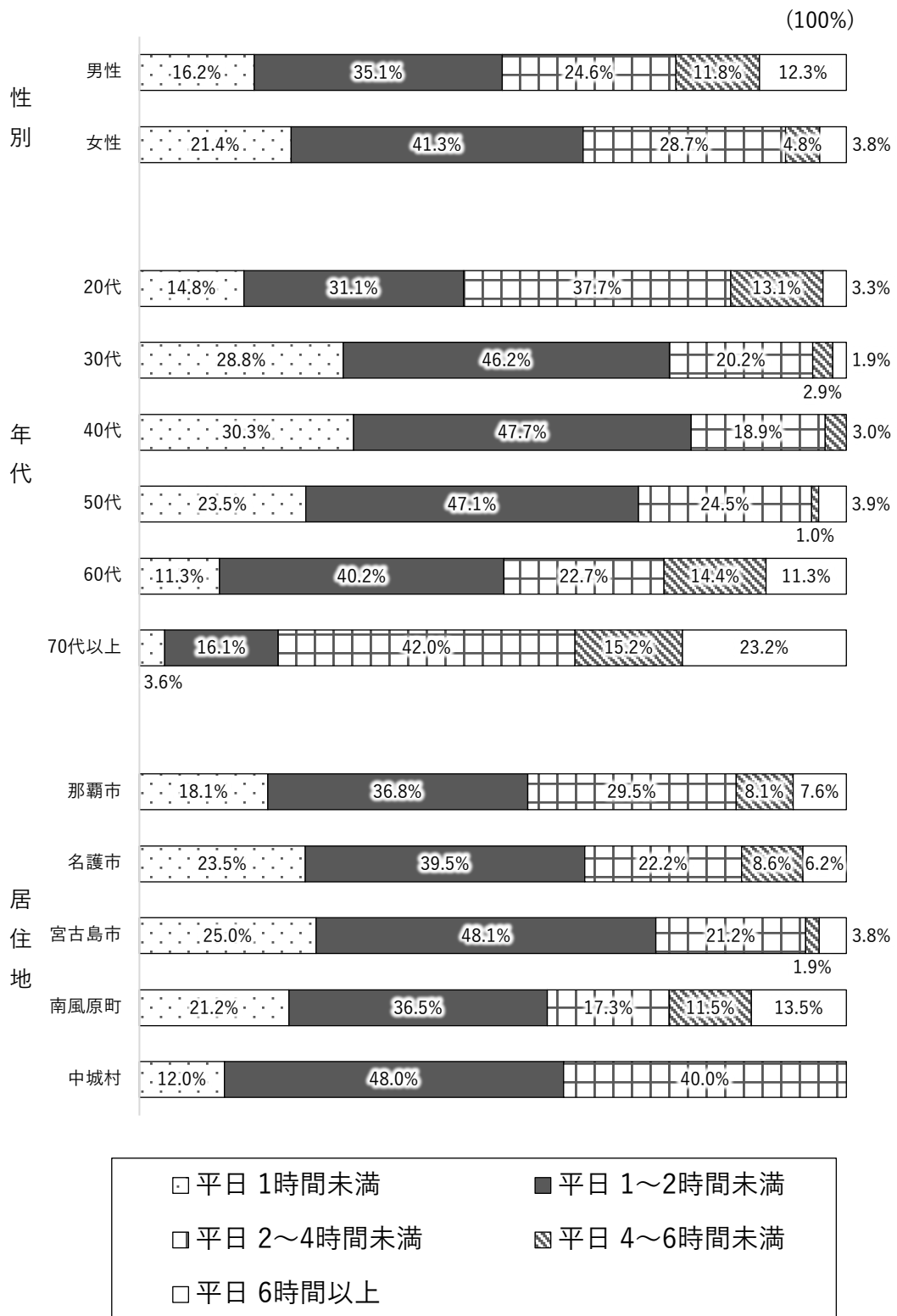


ア 平日の自由時間

男女別でみると、男性は「平日の場合 1 時間～2 時間未満」(35.1%)、「平日の場合 2 時間～4 時間未満」(24.6%)、「平日の場合 1 時間未満」(16.2%)と、上位 3 つで、女性は「平日の場合 1 時間～2 時間未満」(41.3%)、「平日の場合 2 時間～4 時間未満」(28.7%)、「平日の場合 1 時間未満」(21.4%) となっていることから、「平日の場合 1 時間～2 時間未満」の自由時間と回答した傾向が、男性よりも高いことが示されている。

年齢別でみると、20 代 (31.1%)、30 代 (46.2%)、40 代 (47.7%)、50 代 (47.1%)、60 代 (40.2%) では、「平日の場合 1 時間～2 時間未満」と最も高く回答しており、70 代以上 (42.0%) では、「平日の場合 2 時間～4 時間未満」が最も高い回答となっていることから、70 代以上の年代において、平日に使える自由時間が 1 時間～2 時間未満であることが高く示されている。

地域別でみると、那覇市 (36.8%)、名護市 (39.5%)、宮古島市 (48.1%)、南風原町 (36.5%)、中城村 (48.0%) と、全ての地域において、「平日の場合 1 時間～2 時間未満」が最も高く回答されており、地域別に関わらず、平日の自由時間は 2 時間未満であることが示されている。



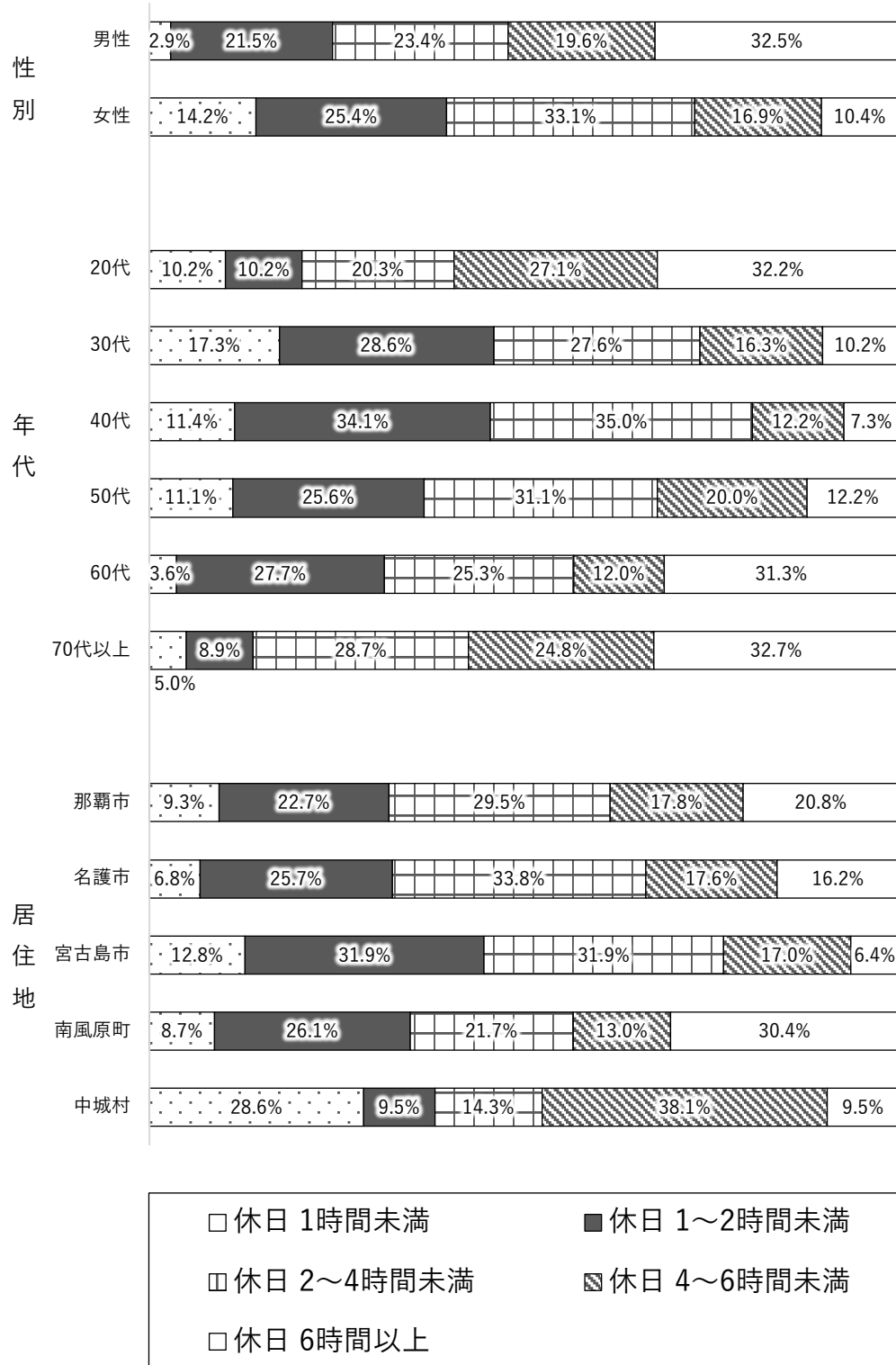
イ 休日の自由時間

男女別でみると、男性は「休日の場合 6 時間以上」(32.5%)、次いで「休日の場合 2 時間～4 時間未満」(23.4%)、「休日の場合 1 時間～2 時間未満」(21.5%) が上位に入っており、女性は「休日の場合 2 時間～4 時間未満」(33.1%)、「休日の場合 1 時間～2 時間未満」(25.4%)、「休日の場合 4 時間～6 時間未満」(16.9%) となっており、男女別に関わらず同じ順位の回答結果となっている。

年齢別でみると、20 代 (32.2%)、60 代 (31.3%)、70 代以上 (32.7%) が、「休日の場合 6 時間以上」と、最も高く回答しており、30 代 (28.6%)、50 代 (25.6%) で、「休日の場合 1 時間～2 時間未満」と最も高く回答しており、40 代 (35.0%) で、「休日の場合 2 時間～4 時間」と、最も高く回答していることから、子育て世代と言われる、30 代と 40 代が使える休日の自由時間は、学生世代の 20 代や、高齢者世代の 60 代、70 代以上に比べると、短い傾向にあることが示されている。

地域別にみると、那覇市 (29.5%)、名護市 (33.8%) では、「休日の場合 2 時間～4 時間」と最も高く回答している。また宮古市では「休日 1～2 時間未満」、「休日 2 時間～4 時間」(31.9%)、南風原町では、「休日の場合 6 時間以上」(30.4%)、そして、中城村では、「休日の場合 4 時間～6 時間」(38.1%) と最も高く回答しており、中都市 (人口 10 万人～50 万人未満) である那覇市と、小都市 (人口 10 万人未満) である名護市、宮古島市における県民の休日における自由時間は、町村である、南風原町と中城村における県民の休日における自由時間に比べると、短い傾向にあることが示されている。

(100%)



2-4 リカレント教育について（問16～問17）

リカレント教育とは、義務教育や高校・専門学校・大学などで教育を修め、現在社会人として働きながら、または、過去に働いた経験のある人が、現在の仕事のキャリアアップや再就職のために大学や短期大学で学び直すことをいう。

1. リカレント教育を受けたいかの有無（問16）

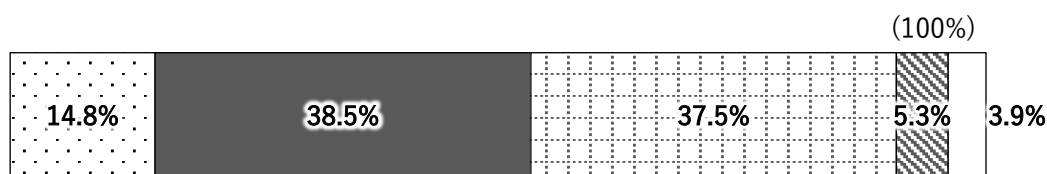
問16 あなたは、社会人になってから、大学、大学院、短大、専門学校などの学校において学習したことがありますか。（主婦・主夫や無職の方も含みます）

問16 回答欄

- 学習したことがある（現在学んでいる）
- 今後、学習したいと思う
- 今後も学習したいとは思わない
- 社会人となった経験がない
- その他（ ）

本年度調査から、リカレント教育への意欲を示す県民を把握するため、新たに作成した設問である。

調査の結果、「今後、学習したいと思う」（38.5%）と最も高く、次いで「今後も学習したいとは思わない」（37.5%）、「学習したことがある（現在学んでいる）」（14.8%）、「社会人となった経験がない」（5.3%）、「その他」（3.9%）となっている。

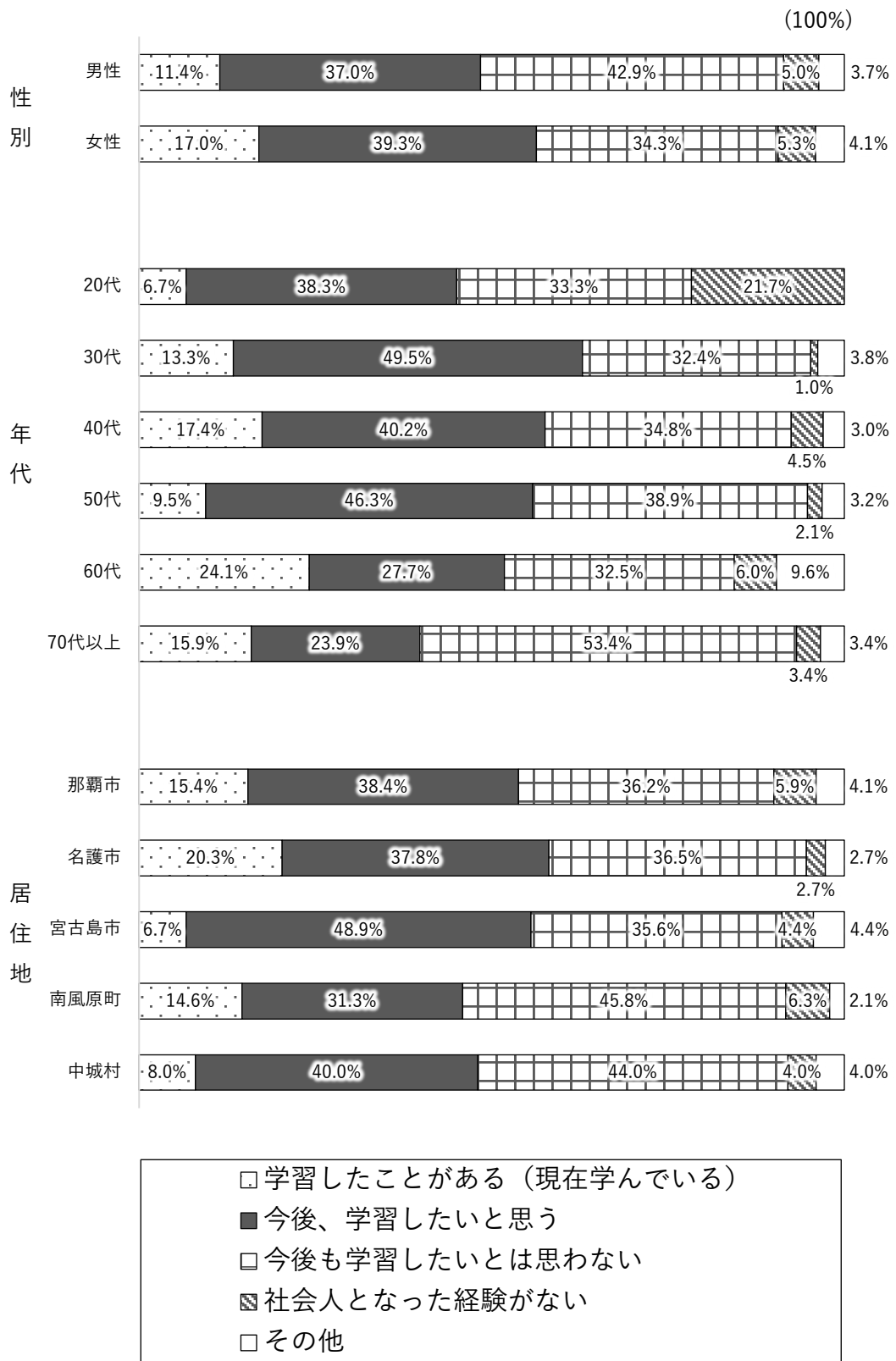


- 学習したことがある（現在学んでいる）
- 今後、学習したいと思う
- 今後も学習したいとは思わない
- 社会人となった経験がない
- その他

男女別にみると、男性で「学習したいと思わない」(42.9%)、「学習したいと思う」(37.0%)、「学習したことがある(現在学んでいる)」(11.4%)が上位3つで、女性は「学習したいと思う」(39.3%)、「学習したいと思わない」(34.3%)、「学習したことがある(現在学んでいる)」(17.0%)となっていることから、女性の方が男性よりもリカレント教育を受けた傾向が高いのと、今後、リカレント教育を受けたい傾向も高いことが示されている。

年齢別にみると、20代(38.3%)、30代(49.5%)、40代(40.2%)、50代(46.3%)、60代(27.7%)では、「学習したいと思う」が最も高い回答結果となっており、70代以上では、「学習をしたいと思わない」(53.4%)が最も高く、70代以上を除いた、30代、40代が、他の世代に比べると、リカレント教育を受けたい傾向が高いことが示されている。

地域別にみると、那覇市(38.4%)、名護市(37.8%)、宮古島市(48.9%)では、「学習したいと思う」が最も高い回答結果となっているが、南風原町(45.8%)、中城村(44.0%)では、「学習したいと思わない」が最も高い回答結果となっており、中都市(人口10万人~50万人未満)である那覇市と、小都市(人口10万人未満)である名護市、宮古島市における県民のリカレント教育への参加傾向は高いが、町村である、南風原町と中城村における県民のリカレント教育への参加は極めて消極的であることが示されている。



2. リカレント教育を受けたい理由（問17）

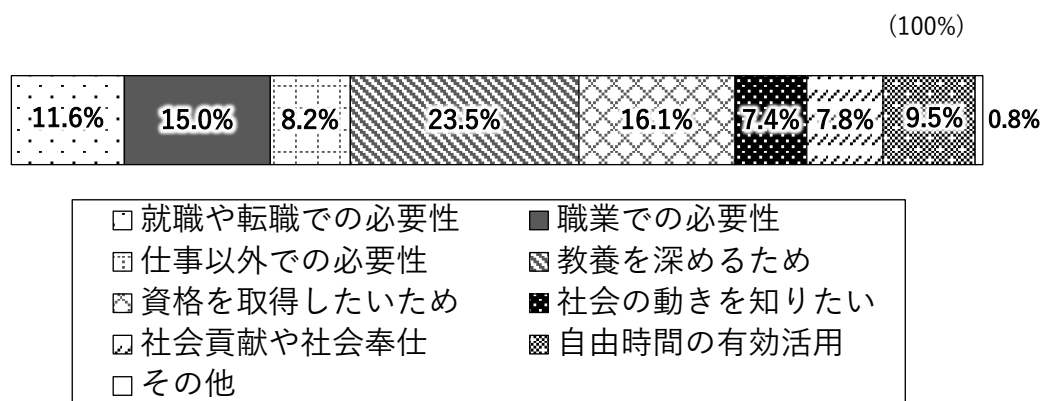
問16で「学習したことがある（現在学んでいる）」「今後学習したい」と答えた方へおたずねします。

問17 あなたが学びたいと考えた理由をいくつでも選んでください

問17 回答欄

- 就職や転職のために必要性を感じていたため
- 職業において必要性を感じていたため
- 仕事以外で必要性を感じていたため
- 教養を深めるため
- 資格を取得したいため
- 地域や社会の新しい動きについて知りたいと考えたため
- 社会貢献や社会奉仕をしたいため
- 自由時間を有効に活用するため
- その他（ ）

リカレント教育を受けたい理由として、「教養を深めるため」(23.5%)、次いで「資格を取得したいため」(16.1%)、「職業において必要性を感じていたため」(15.0%)、「就職や転職のために必要性を感じていたため」(11.6%) という結果になっている。

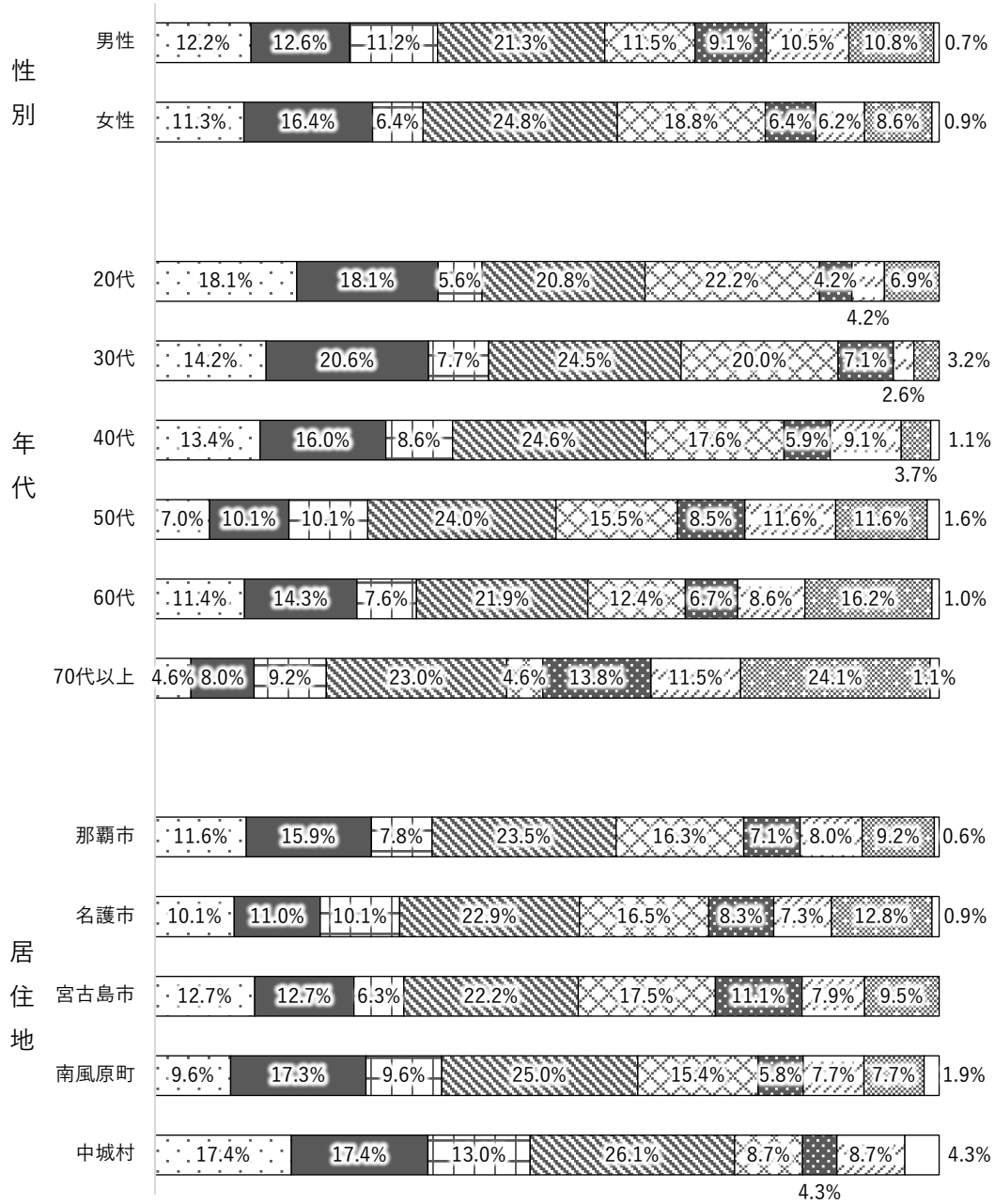


男女別にみると、男性で「教養を深めるため」(21.3%)、「職業において必要性を感じて」(12.6%)、「就職や転職のために必要性を感じていたため」(12.2%) が上位3つで、女性は「教養を深めるため」(24.8%)、「資格を取得したいため」(18.8%)、「職業において必要性を感じて」(16.4%) となっていることから、男女別に関わらず、男女とも職業や就職のため、リカレント教育を受けた体験がある、または、今後リカレント教育を受ける傾向が高いことが示されている。

年齢別にみると、20代では、「資格を取得したいため」(22.2%)と最も高く、また30代(24.5%)、40代(24.6%)、50代(24.0%)、60代(21.9%)、70代以上(23.0%)では、「教養を深めるため」が最も高く回答されていることから、年齢別に関わらず、職業や就職のため、リカレント教育を受けた体験がある、または、今後リカレント教育を受ける傾向が高いことが示されている。

地域別にみると、那覇市(23.5%)、名護市(22.9%)、宮古島市(22.2%)、南風原町(25.0%)、中城村(26.1%)と、全ての調査対象地域において、「教養のため」リカレント教育を受けたまたは、今後リカレント教育を受けることが高く示されている。

(100%)



- | | |
|--------------|--------------|
| □ 就職や転職での必要性 | ■ 職業での必要性 |
| □ 仕事以外での必要性 | ▨ 教養を深めるため |
| ▨ 資格を取得したいため | ■ 社会の動きを知りたい |
| □ 社会貢献や社会奉仕 | ▨ 自由時間の有効活用 |
| □ その他 | |